

人まいろいろ

介懐の世の経る者

月子つれ野の月をよむといふ花吹をしたら

内頭がふた

悪者おろしためがご存いと息をとり解し

ておさすうた

とりのうき江守

人の実情はさむい午ご要紀すことおろす

結比ヨムニエウトはむつおしいううた

私にこう思つていろ

孝太郎お忠子でも

息子にこのて下と下は彼の要

次は彼の子供だ

甘くわくもおはすりスリ

自存はたどスリあるいはヤニ

つたおもしおろ

としにうその立場を守ろうにや

それ水平和の元だ

勝手にお見えといわらんたすういよと

も大印だ

人は自分とちがうの本 あたりすぎ

自分も暮年と思つても

相手もそう思つてゐる

私に^けけんをさす^けけい^け仲よく^けいたい

あの人^けはそうゆう人^けなん^けだと思ふ^け所^けない

強^けじ^ける^けな^け

人^けを^けいろ^けく^けし^けた^け

全員^け同じ^けだ^けつ^けた^けら^けあ^けも^けし^けろ^けん^けな^け

一人^け一人^けち^けが^けう^けか^けら^け

つ^けま^けい^けか^けい^けを^け考^けえ^ける^けよう^けと^けな^ける^け

2022
12/12